

4～6 歳児における状況絵の語りの発達 —ナラティブ発達評価指標作成に向けての基礎研究—

○秦野悦子 (白百合女子大学)

瀬戸淳子 (帝京平成大学)

キーワード：状況絵の語り、幼児、ナラティブ発達

問題と目的

幼児期から児童期の言語発達支援に向けて、ナラティブ発達の指標作成は、言語発達教育において直面している課題のひとつである。幼児期のナラティブ発達は、児童期の学業成績や読み書きとの関連が示唆されている。

本研究の目的は、定型発達幼児を対象としてナラティブ発達過程を明らかにすることを目的とし、これまで課題ごとに分析を進めてきた(瀬戸・秦野 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019; 秦野・瀬戸 2014, 2015, 2016)。本報告では、絵に描かれた状況を読み取り言語化する「状況絵の語り」課題で、絵に描かれている情景をこれまでの経験的知識を基に推測、解釈し、その内容を言語的に説明する能力の分析を行う。具体例には、1) 状況絵の語りにおける発話量 (平均文節数)、2) 状況絵の語りにおけるフィクショナル・ナラティブ (FN) 数とその内容構成、3) 状況絵の語りにおける FN の組織化について明らかにすることを目的とした。

方法

調査参加児 保護者の承諾を得た幼稚園在園の 4 歳 0 か月から 6 歳 10 か月の定型発達児 153 名のうち、無応答を除外した 148 名 (M75, F73) であった。

Table 1 対象児のプロフィール

	Range	Mean	M	F	Σ
4歳前半	48-53M	50.9M	12	10	22
4歳後半	54-59M	57.0M	18	16	34
5歳前半	60-65M	62.6M	11	19	30
5歳後半	66-71M	68.2M	15	14	29
6歳前半	72-77M	74.1M	6	12	18
6歳後半	78-82M	79.5M	13	2	15
Σ			75	73	148

状況絵課題 複数の人物が問題に直面し、社会的葛藤が描かれた状況絵で全 4 図版実施した。

期間 2013 年, 2015 年, 2016 年。

手続き 机に向かい合って座り、実施者は子どもの正面の机の上に図版を提示し、「これは何を描いた絵ですか。どんな絵ですか。この絵のお話をしてください。」と問かけをした。子どもの応答後、「ほかにないですか」と促した。

分析資料 IC レコーダーで録音した音声記録は、文字データに転記し発話プロトコル作成した。本報告では「花屋」課題を分析の対象とした。

結果と考察

1) 状況絵の語りにおける発話量 (平均文節数)

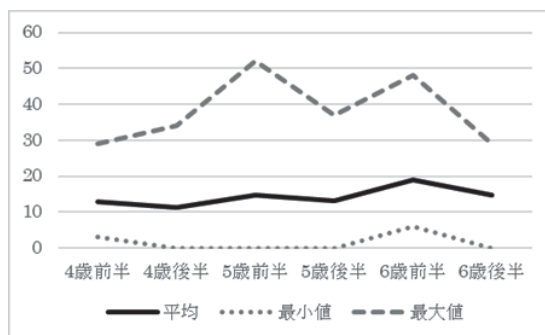


Figure 1 年齢ごとの発話量 (平均文節数)

2) フィクショナル・ナラティブ (FN) 構成

参加児の全 FN を 6 分類した。／事象事実と人物言動／心的・情動的状态／言動と言動との因関係／2 言及間の果関係／心的・情動的状态と別の心的・情動的状态の因関係／参照的工夫／

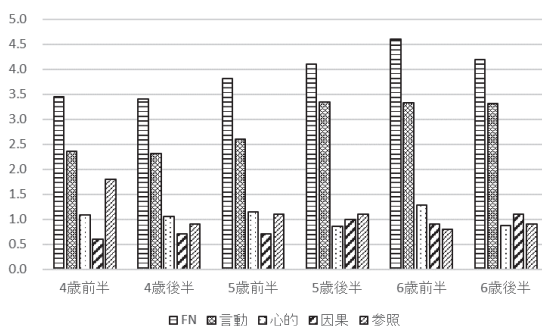


Figure 2 年齢ごとの語りの構成内容

3) 状況絵における FN の組織化

「花屋」の基準命題となる FN を抽出し、組織化の要素数を点数した。命題得点基準としては、犬がにげた／人が追いかけた／花が倒れた／花屋が子どもを叱った／子どもが弁明した／に各 1 点付与し、0 点～5 点に分布した。

Figure 3 年齢ごとの語りの組織化

付 記

平成 27～30 年度基盤研究 C (課題番号 15K04572) の助成を受けた。